

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400694		
法人名	社会福祉法人みのり福祉会		
事業所名	北栄みのりグループホーム(コナンの里・風車の丘)		
所在地	鳥取県東伯郡北栄町東園219-1		
自己評価作成日	令和 8年 1月 25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3171400694-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和8年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・のどかな環境を利用して、できるだけ多くのご利用者様に戸外に出て外気に触れたり身体機能維持の目的で一緒に長距離または短距離でも散歩の支援をしています。・北栄町で馴染みのある「養蚕」を始めて15年が経過した。玄関フロアで育てていることもあり、来訪者、ご家族様に楽しんでいただく事が出来た。毎年の恒例行事となり楽しみの一つとなっている。地域の方にも見に来ていただけるように開放していきたいと思っている。・法人の理念にも掲げられているように「地域を愛し、地域の皆様の幸せのために 心を込めて奉仕します」に沿って活動している。地域の神社掃除、北栄町主催の「地域支援事業」に参加して、北栄町の地域を回り「困り事」を尋ねたり「猫の手貸します」として独居の方の家の掃除や入院中のペットの世話など行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念に加え、職員全員で考えられたホームの理念「ご利用者の思いに寄り添い、健康で穏やかに毎日笑顔で過ごせるように支援します」を作られ、日々実践できるように努めておられます。食事は3食すべて手作りで提供されており、ホワイトボードに当日のメニューを記入され、食事が楽しみの一つになるように工夫されています。食事の準備や盛り付け、干し柿作り、餅つき、畑の野菜を収穫し献立に取り入れられています。行事の際にはお弁当メニューの中から食べたいものを選んで頂いております。様々な場面で食事が楽しみになる工夫をされています。誕生日には、「願いを叶える日」として、希望を尋ね、希望の食べ物を購入したり、作るなどして喜んで頂けるよう工夫されています。お盆拭きや下膳等、利用者に併せた役割分担を考え職員と一緒に行われています。北栄町全体での地域ケア会議、地域ネットワーク会議、「北栄安心見守りネット」にも加入され、公民館活動にも参加され、地域交流や地域貢献も積極的に行われています。家族への信頼関係の構築にも努め、通信アプリを利用したり、利用者の様子を記載した毎月のお便りも送られています。利用者一人ひとりに応じた支援が行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人内の5グループホーム共通理念に加え、全職員で案を出し合い実態に即した独自の理念「ご利用者様の思いに寄り添い、健康で穏やかに毎日笑顔で過ごせるように支援します」を職員の目に留まる場所に貼り、意識づけできるようにしている。	同一法人5つのグループホームの共通理念に加え、北栄みのりグループホームの理念を全職員で案を出し合い作られ、ホーム玄関等にも掲示され、意識付けされ、実践に繋がるよう努めておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域ケア会議、地域ネットワーク会議、「北栄安心見守りネット」に加入して、地域との連携を深めている。 ・認知症ケア向上連絡会に参加し、合同運動会にて、他施設との交流を図り情報交換することが出来た。 ・コロナ渦もあけ、地域で開催されるオレンジカフェにご利用者と出かけて交流を図っている。 ・年2回実施される地域の神社掃除に参加し、出来ることで地域に貢献するよう努力している	地域ケア会議、地域ネットワーク会議、「北栄安心見守りネット」に加入され、地域との連携が図られています。また、認知症ケア向上連絡会に参加されており、町内GH合同運動会開催時には他施設との交流を図り情報交換が行われています。地域で開催されるオレンジカフェに利用者とお出かけて交流をされています。年2回、地域の神社掃除や地区の公民館活動、自治会行事に参加され、地域との交流、地域貢献が行えるよう努めておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・「認知症サポーターキャラバン」の研修を受けた職員が、包括の職員さんと地域にある小学校に出かけて行き「認知症サポーター養成講座」のお手伝いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に一回開催し、利用状況、リスクマネジメントを報告する中で提案や助言・情報をいただきケアの向上につなげている。(北栄町介護予防のためのリハビリテーション専門派遣事業を活用し助言していただいた) ・会議内容を職員全員に報告し取り組みについて話し合い、実践することによりサービス向上に努めている。 ・日頃からオレンジカフェに携わっている方(1名)を構成員として会議に参加していただいている。	2か月に一回開催される運営推進会議では、利用状況、リスクマネジメントを報告する中で提案や助言・情報を頂きケアの向上に繋げておられます。(北栄町介護予防のためのリハビリテーション専門派遣事業を活用しアドバイス、転倒防止の取り組みの実施)また、会議内容は全職員に報告され、話し合いサービス向上に努めておられます。構成メンバーに「まちづくりネット、オレンジカフェ担当者」も参加されています。会議の際にはホーム内の視察をして頂き、気付かれた事を提言してもらいケアに活かされています。	手作りの食事提供の特色を活かし、昼食試食会を実施する等し、意見を頂き、サービスに活かせるよう取り組まれることも良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・北栄町包括の職員さんとは相談しやすい関係が築けており、施設運営 またご利用者様の支援に関する相談に親身になって下さり、事あるごとに相談し助言をいただいている。 ・今年度も事業所側としての悩み事の相談にのっていただき、精神的なケアをしていただいた。 	北栄町包括の職員さんとは相談しやすい関係が築けており、施設運営や利用者への支援に関する相談に丁寧に助言を頂かれています。また、包括職員と一緒に地域の小学校に出かけ「認知症サポーター養成講座」が行われています。日頃から、市町村との連携を図り良好な関係を保たれ、精神的なケアもしていただかれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関は夜間帯以外は施錠せず、いつでも出入りできるようにしている。帰宅願望のあるご利用者様は単独で外出されることを止めることをせず、一緒に歩く支援を行っている。 ・可能な限り毎月「身体拘束委員会」を開催し問題点を話し合い解決に向けて検討している。 ・定期的に高齢者虐待・身体拘束廃止についての研修会を開催している。 ・令和3年8月から、隣接するデイサービスと合同で「身体拘束・虐待防止委員会」を開催するとともに、外部の研修を受け復命することで職員間で情報共有している。 	玄関は夜間帯以外は施錠せず、自由に外出できるように対応されています。帰宅願望のある利用者に対しては単独で外出されることを止めることをせず、一緒に歩く支援をされています。可能な限り毎月「身体拘束委員会」を開催し問題点を話し合い解決に向けて検討されています。定期的に高齢者虐待・身体拘束廃止についての研修会を開催し、令和3年8月から、隣接するデイサービスと合同で「身体拘束・虐待防止委員会」を開催するとともに、外部の研修を受け復命することで職員間で情報共有されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内の職員は北栄町の「高齢者虐待防止連絡協議会」の委員を10年継続している。会議には欠かさず出席して町内の虐待の実態、また施設内で虐待が起きないように常に注意を払うとともに、職員同士声をかけ合える関係を築き意識づけを行っている。毎月委員会を開催している。ポスターを掲示し意識づけしている。 	事業所内の職員は北栄町の「高齢者虐待防止連絡協議会」の委員を10年継続されています。会議には欠かさず出席して町内の虐待の実態、また施設内で虐待が起きないように常に注意を払うとともに、職員同士声を掛け合える関係を築き意識づけが行われています。毎月委員会を開催され、研修の実施、ポスター掲示により意識づけが行われています。	職員にストレスチェック、アンダーコントロールの講習も取り入れられると良いと思います。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・現在ホーム内に成年後見制度を利用されているご利用者様が1名おられ、施設運営に協力いただいている。 ・包括の方に協力をいただき、現在までに3名のご利用者様に成年後見人の手続きを行った。 ・機会があるごとに権利擁護、成年後見制度についての研修を受けるよう努めている。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の際には、丁寧に重要事項説明書と契約書の説明をして納得していただいた上で契約を結んでいる。改定等があった場合は、ご家族様ご利用者様に文書を配布し説明した上で署名捺印をいただいている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・年1回家族アンケートによりご意見を伺っている、いただいた意見や要望に誠意をもって回答し実行するように努めており、運営推進会議でも報告し、全家庭にアンケートの集計結果報告を郵送している。施設内にも掲示するとともに職員会でも報告し共有している。	利用者からは日々の会話から意見や要望を伺われています。家族には年1回アンケートによりご意見を伺われています。頂いた意見や要望は迅速に回答しておられ、運営推進会議でも報告し、全家庭にアンケートの集計結果報告を郵送されています。施設内にも掲示するとともに職員会でも報告し共有されています。プラン変更時にも意見要望を聞かれています。毎月の請求書と一緒に利用者の様子が分かるお便りを送付され、通信アプリを活用しての写真送付、オンライン面会も行われ、家族との信頼関係が構築できるよう図られています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者はいつでも希望、要望を言いやすい雰囲気になるように努めている。毎年途中で施設長による職員面談により一人ひとり別室で話す機会を設けて、希望や要望を含め話す時間を設けて働きやすい環境になるよう努めている。	毎月の全体会議、ユニット会議では意見を聞かれ、ユニットリーダーと話し合われる場を設けるなど、管理者はいつでも希望、要望を言いやすい雰囲気になるように努めておられます。また、毎年度、施設長による職員面談を実施され、一人ひとり個別に希望・要望を話す機会を設け、働きやすい環境になるよう努めておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・毎年給与の見直しが行われており、一人ひとりに合わせた給与の支給がなされている。資格取得の際には、助成制度がある。個々に合わせた勤務体制ができるように配慮している。・年々職員の処遇が改善されており、資格を持つ職員について正職の枠が広がる事になり、令和3年度末より正職試験が実施される。向上心と意欲に繋がっている。	毎年給与の見直しをされ、一人ひとりの能力に合わせた支給されています。資格取得の際には、助成制度があります。ワークライフバランスに配慮した個々に合わせた勤務体制になるよう図られています。年々職員の処遇が改善されており、資格（介護福祉士資格）を持つ職員について正職の枠が広がる事になり、令和3年度末より正職試験が実施されており、向上心と意欲に繋がっています。生産性向上委員会の設置も行なわれています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は度々ホームを訪れ職員の勤務状態を把握するよう努めている。 ・今年度も法人主催の研修がwebで定期的開催され、全職員が能力・担当業務に応じた研修を受けている。法人外部の研修は管理者とユニットリーダーが職員個々の能力に応じ受けられるようにしている。	代表者は度々ホームを訪れ職員の勤務状態を把握するよう努めておられます。今年度も法人主催の研修がwebで定期的開催され、全職員が能力・担当業務に応じた研修を受講されています。法人外部の研修は管理者とユニットリーダーが職員個々の能力に応じ受講できるよう配慮し、取り組まれています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・包括支援センターを中心とした認知症ケア向上連絡会で同業者が集まり、運動会・研修会を開催し良い交流の場となっている。 また、近隣の施設職員、ご利用者様を行事に招いて交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前から生活習慣・嗜好等を入念にアセスメントを行い、入居当初は特に関わりを多く持つようにして、ニーズを把握し信頼関係を深めるように努めている。また他の利用者との関わりを持てるように仲立ちをして、グループホームが過ごしやすい所となる様に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・契約時には家族の想いや困り事も十分に聴くようにして、想いに添えるように努力している。面会時にもできるだけ安心していただけるような言葉で近況を伝えている。また必要に応じて電話連絡し家族の希望を聴き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人や家族の想いを最優先として、最善と思われる支援につなげるように努力している。自宅での生活が困難であり、入居を急いでおられる場合は隣接するデイサービスの宿泊サービスを利用していただきグループホーム入居につなげる場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は、ご利用者様の身体と精神状態をしっかり把握し、生活する中で、調理・洗濯・掃除・食器洗い・畑仕事・手作業などの得意な事、持っておられる技術を発揮できるように配慮し、一緒に行うことにより良い関係を築くことができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族とご利用者様・担当職員ができるだけ連絡を取る機会をもてるように努め、例年であれば通院・馴染みの美容院・日中の帰宅など、ご家族様の負担にならないよう配慮しながら同行していただいている。職員はご家族様が気軽にホームに立ち寄ったり、行事にも参加しやすい雰囲気づくりに勤めている。 ・各ユニットにあるiPadのLINEビデオ通話でお顔を合わせながら会話できるよう整備している。特に遠方におられるご家族様にとっても喜ばれ定期的にグループLINE通話を楽しんでおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前調査や、本人と対話する中で知り得た情報を基に、墓参りや馴染みの場所を訪れたりしている。 ・例年であれば親族の方はもとより近所の方や友人の方を温かく迎え、訪問しやすい雰囲気づくりに努め関係の継続ができるようにしている。通院の機会に帰りに自宅に立ち寄ったり、気になる場所に足を延ばすなどの支援をしている。	入居前調査や、本人と対話する中で知り得た情報を基に、墓参りや馴染みの場所を訪れておられます。親族の方、近所の方や友人の方が訪問しやすい雰囲気づくりに努め関係の継続ができるようにしておられます。通院の機会に帰りに自宅に立ち寄ったり、気になる場所に足を延ばすなどの支援も行なわれています。コロナ5類移行後は以前のように馴染みの場所や人にも出掛けたり、会える機会も増えています。	出掛けることが難しい場合には写真や手紙を活用したり、馴染みの場所や人に会われた際には思い出を話してもらい、回想法に繋げ、利用者の思いや意向の把握に活用できると良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合うご利用様が会話や手作業を一緒にできるようにテーブルやソファの位置に配慮したり、時には職員が仲立ちをしてご利用者様同士の関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・長期入院で退居されたご利用者様でも、退院される際には連絡をいただき他の事業所を含め円滑な介護サービスへの移行を心がけている。必要に応じていつでも相談に応じる旨を伝えており、当ホームへ再入居されたご利用者様も多くおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご利用者様と共に過ごし談笑する中で、一人ひとりの話に傾聴し思いをくみ取る様にしている。耳の遠いご利用者様には筆談やジェスチャーで意思の疎通を図っている。意思疎通が困難な場合でも、ご家族様と話し合ったり、日々の生活の中でご利用者様の表情や様子から思いをくみ取るようにしている。	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす時間があり、談笑する中で、一人ひとりの話に傾聴し思いや願いをくみ取れるよう努めておられます。耳の遠い利用者には筆談やジェスチャーで意思の疎通を図られています。意思疎通が困難な場合は、家族と話し合ったり、日々の生活の中で利用者の表情や様子から思いをくみ取るように心掛けておられます。役割を持たれ生活に張りが生まれ、生きがいを感じておられる利用者もおられます。	思いや意見はから利用者本人の生きがいに繋げていかれると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前に本人様やご家族様から生活歴、嗜好、得意な事や趣味等を聴き取り職員全員で把握している。入居後も会話する中で知り得た生活歴等を記録し、日々の支援が充実したものになるように努めている。居室内には馴染みの使い慣れた物品を置いていただき、ご利用者様にとって落ち着ける環境になるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご利用者様の生活リズムを把握し、ご本人様のペースで生活していただくようにしている。それぞれの趣味や特技を發揮できるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者は、他の介護職員の意見を取り入れながらアセスメントを作成し、計画作成担当者がプランに盛り込んでいる。また毎月、日課表に評価とモニタリングを記録し次の支援につなげている。本人様の心身の状態を見極め、ご家族様や主治医と連携を取りながら、必要に添った支援ができるようにプランに繋げ、介護者が統一した支援ができるように努めている。必要に応じて途中で介護計画の見直しを行い適切な支援を提供している。コロナ渦もあけ、施設内の本人様の居室にて担当者会議を開催している。	担当者は、他の介護職員の意見を取り入れながらアセスメントを作成し、計画作成担当者と一緒に素案作りが行なわれています。また、毎月、日課表に評価とモニタリングを記録し次の支援につなげておられます。本人の心身の状態を見極め、家族や主治医と連携を取りながら、必要に添った支援ができるようにプランに繋げ、介護者が統一した支援ができるように努めておられます。評価・見直しは6ヶ月ごとを実施され、必要に応じて途中で介護計画の見直しが行われ、適切な支援になるよう図られています。コロナ5類移行後は、利用者本人の居室にて担当・計画作成者・家族が参加され担当者会議を開催されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日課表を基に毎月のモニタリングに反映させ、次のプランにつなげている。水分・排泄・食事量・バイタル・日中の様子・受診記録・ケアプランの実施状況が一目でわかりやすいように様式を作成している。	日課表を基に毎月のモニタリングに反映させ、次のプランにつなげておられます。現在はすべて手書きで記録されています。今後ホームにおいてもICT力が進められる予定です。水分・排泄・食事量・バイタル・日中の様子・受診記録・ケアプランの実施状況が一目でわかりやすいように様式を作成されています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外出支援や自宅への一時帰宅の付き添い、墓参り、買い物など本人様の希望に添えるような支援に心がけている。誕生日には「願いを叶える日」として、あらかじめ会話の中でご本人様の希望を聴き、可能な限り叶えている。行きつけの病院への通院支援・入院中の必要な支援、希望に応じて看取りの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・通常であれば、入居前から行きつけだった美容院や眼鏡店に出かけたりしていただきお気に入り継続できるようにしている。また、毎月開催されるオレンジカフェに出かけることにより、知人と会い会話したり、同じ町内のグループホーム収穫祭(行事)に出かけて交流と収穫の喜びを味わっていただいている。町で開催される合同運動会に参加することにより、馴染みの関係の継続につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・在宅時から地元の病院に受診や、当事業所の協力病院による定期往診・臨時受診を受けて体調管理できるように支援している。また、地元の病院にかかっておられたご利用者が通院困難になられた際には、往診に来ていただけるように主治医と連携を図っている。その都度ご家族様への受診相談と報告、また毎月おたよりで受診状況を報告している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を受診されており、受診支援も行なわれています。在宅時から地元の病院への受診や当事業所の協力病院による定期往診・臨時受診を受けて体調管理できるように支援されています。また、地元の病院にかかっておられた利用者が通院困難になられた際には、往診に来て頂けるように主治医と連携を図られています。その都度ご家族への受診相談と報告、また、毎月お便りで受診状況を報告されています。歯科の往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・常勤での看護師は配置していないが併設しているデイサービスの看護師と連絡を密にしており、小さな変化にも迅速に対応できるようにしている。必要に応じて訪問看護と契約し継続して医療処置を受け、相談もしている。その都度 医療機関を受診・往診で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院の際は洗濯、買い物などの支援を行いご家族様の負担軽減や安心感を得られるようにしている。病院との連携を密にとり精神的な不安を軽くする為に出来るだけ早期に退院し、通院治療が可能になる様に医師との連携を図っている。	入院の際は洗濯、買い物などの支援を行い、家族の負担軽減や安心感を得られるようにしていただけます。病院の地域連携室と連携を密にとり、情報提供を行い、本人の精神的な不安を軽くする為に出来るだけ早期に退院し、通院治療が可能になる様に医師との連携が図られています。退院カンファレンスも行われ、退院後の生活の注意点等伺われています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・主治医が終末期が近いと判断された時点で、管理者・ご家族様とケアマネ・リーダーで話し合いの場を持ち、本人様がお元気な頃にとどのような終末期を望んでおられたか、またご家族様が望まれる場合は速やかに「看取りケアマニュアル」に沿い、担当者がカンファレンスを開催してアセスメントに沿ってプランを作成して支援にあたっている。・状態により、ご家族様に付き添い泊まっていたく等の対応も行っている。	主治医が終末期が近いと判断された時点で、管理者・家族とケアマネ・リーダーで話し合いの場を持ち、本人がお元気な頃にとどのような終末期を望んでおられたか、また、家族が望まれる終末期を聴きとり施設内での看取りを希望される場合は速やかに「看取りケアマニュアル」に沿い、担当者がカンファレンスを開催してアセスメントに沿ってプランを作成して支援されています。状態により、家族に付き添い泊まって頂く等の対応も行なわれています。看取り研修も行なわれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、全職員が消防署の救命救急、AEDの講習を受けている。緊急時の対応方法として全職員が学んでおり、事故発生時に備えている。年に2回の通報訓練・避難訓練・消火訓練と年1回夜間訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・火災、水害と避難訓練を実際にご利用様と一緒に避難を実践した。ご家族様や地域の方にも連絡網に加わっていただき、通報訓練にも参加していただき災害時に備えている。火災時の避難誘導の協力体制について、同じ町内にあるグループホームと協力協定を取り交わし、災害時には協力し合えるように居室前にはご利用様の身体状態がわかるように、どちらの施設が避難の協力に行っても分かるように同じ表示をしている。 ・昨年度から法人、北栄町が主催しているBCP訓練に参加している（webで机上訓練にも参加した） 	<p>火災、水害と避難訓練を利用者と一緒に避難を実施されており、内一回は夜間想定で行なわれています。家族や地域の方にも連絡網に加わって頂き、通報訓練が行われています。町内にあるグループホームと災害時における相互協力体制についての協力協定を取り交わしておられます。居室前には利用者の身体状態が分かるように、他のホームと同様の表示をされ、どちらのホーム職員が避難の協力に行っても分かるように工夫されています。昨年度から法人、北栄町が主催しているBCP訓練に参加されています。（webで机上訓練にも参加）</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する事、入浴時など特にプライバシーや尊厳を尊重した声掛けや対応をするように注意している。法人で作成した「接遇マニュアル」を参考に毎月の目標を玄関に掲げ意識づけをしている。職員間でもご利用様の生活歴を理解したうえで一人ひとりに合わせた声掛けや対応に配慮している。 	<p>排泄に関する事、入浴時など特にプライバシーや尊厳を尊重した声掛けや対応をするように注意する等、排泄・入浴マニュアルに従い対応されています。また、法人で作成した「接遇マニュアル」を参考に毎月の目標を玄関に掲げ意識付けが行なわれています。職員間でも利用者の生活歴を理解した上で一人ひとりに合わせた声掛けや対応に配慮されています。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴の希望や外出、更衣時の衣服選びや食べ物の好みなど小さなことでも希望を尋ねることにより、押しつけず自己決定できるように努めている。また 毎朝、飲み物の希望を尋ねて嗜好に合った物を提供している。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の気分や体調を把握し、一人ひとりのペースに合わせた生活ができるように配慮しながら声掛けしている。食事や入浴の頻度や時間も一人ひとりの希望に添えるように努力している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅時に本人様が気に入って購入されていた衣服を持参していただき、その中から季節や行事、その日にあわせて出来るだけご本人様の意向で決めている。 ・お気に入りの髪型にたく、在宅時通われていた美容院に行かれるご利用者さまおられ地域に馴染んだ関係性を継続している。自己決定できないご利用者様については職員と一緒に考えている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・一人ひとりの嗜好に合わせてメニューに嫌いなものがある時は別メニューを作り提供している。ホワイトボードに当日のメニューを記入して、食事が楽しみの一つになるようにしている。・食事の下準備や盛り付け、お盆拭きや下膳等ご利用者様の出来る事に合わせて一緒に食事の準備片付けをしている。・行事の時は、カラフルなお弁当メニューの中から食べたいものを選んでいただいで楽しみの一つになっている。・誕生日の願いを叶える為に希望を尋ねると好きな食べ物を言われる場合は、職員が選んで購入、または作るなどして喜んでいただけるように誕生日当日に提供している。	一人ひとりの嗜好に合わせてメニューに嫌いなものがある時は別メニューを作り提供されています。食事は3食すべて手作りで提供されており、ホワイトボードに当日のメニューを記入され、食事が楽しみの一つになるように工夫されています。食事の下準備や盛り付け、干し柿作り、餅つき、畑の野菜を収穫し献立に取り入れられています。行事の際にはお弁当メニューの中から食べたいものを選んで頂いておられます。様々な場面で食事が楽しみになる工夫をされています。誕生日には、「願いを叶える日」として、希望を尋ね、希望の食べ物を購入したり、作るなどして喜んで頂けるよう工夫されています。お盆拭きや下膳等、利用者に伴せた役割分担を考え職員と一緒に行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・入居時にパン食・米飯食の好みを聴き取りできるだけ好みに合わせた食事内容にしている。食事量や本人様に必要な水分摂取量を把握し、水分摂取量が少ない方には内容や方法を個人に合わせて工夫し、食事量が減っている方には好物の食べ物を用意したりその時々に合わせて対応している。また栄養士の資格をもった職員を中心に献立をたてている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアの介助が必要な方、声掛けをして自分でされる方もあり一人ひとりに合わせた対応をして、毎食後職員が確認を行っている。・介助が必要な方には、出来ないところを手伝うようにしている。必要に応じてかかりつけの歯科に行くか協力歯科医院による訪問治療をしていただいている	利用者の状況に応じて、口腔ケアが実施されており、声掛けをして自分でされる方、職員による仕上げが必要な方一人ひとりの状態に合わせた対応を行い、毎食後職員が確認されています。義歯は夜間洗浄液に漬けて清潔保持をされています。必要に応じてかかりつけの歯科への受診、若しくは協力歯科による訪問治療が行われています。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの排泄パターンを把握して、様子を見ながら個々に合わせて声掛けとトイレ案内を行い感染症を防ぐためにも出来るだけトイレでの排泄を促している。ご自分でトイレへ行かれるご利用者様にはさりげなく見守りをしている。ほぼ寝たきりの方も、排便の日数をみながらトイレでの排泄ができるよう二人介助で無理のないようにトイレ案内を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、様子を見ながら個々に合わせて声掛けとトイレ案内を行い感染症を防ぐためにも出来るだけトイレでの排泄を促されています。布パンツのみで過ごされ、自立したトイレでの排泄ができる方もあり、さりげなく見守りをされています。ほぼ寝たきりの方も、排便の日数をみながらトイレでの排泄ができるよう二人介助で無理のないようにトイレ案内が行われており、できるだけ最期までトイレで排泄できるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の排泄チェックで排便の把握をして主治医と連携をとりながら便秘予防に努めている。階段や廊下を利用して運動の機会を増やしている。・気候の良い季節には出来る限り戸外に散歩に出て運動できるように促している。毎日朝食にバナナヨーグルトを提供したり、食物繊維の多い食材や種類を豊富にするなどしてバランスの良い食事の提供に努めている。また十分な水分量を摂取していただくために嗜好に合わせた飲み物や温度に配慮して提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・午前中の中の入浴を好まれる方、毎日入浴したい方など一人ひとりの希望に添って対応をするように努めている。体調の具合で入浴に気が向かない方には足浴や清拭で爽快感を味わっていただいている。寝たきりの方にも入浴の爽快感を味わっていただきたく、ルームシャンプーで洗髪し清潔にして過ごしていただいている。脱衣場にラジオを設置し、音楽やラジオを聴きリラックスできる雰囲気を作っている。	基本的には日曜日はお休みされています。必要時には日曜日にも入浴されています。午前中の中の入浴を好まれる方、夕方に入浴されたい方、毎日入浴したい方など一人ひとりの希望に添って対応をするように努めておられます。体調の具合で入浴に気が向かない方には足浴や清拭で爽快感を味わっていただいています。寝たきりの方にも入浴の爽快感を味わって頂けるようルームシャンプーで洗髪し清潔にして過ごして頂いています。入浴拒否の方には無理強いせず、担当や声掛けの工夫をしながら入って頂けるよう声掛けされています。脱衣場にラジオを設置し、音楽やラジオを聴きリラックスできる雰囲気を作られています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中は活動的に過ごしていただけるように声掛けして、出来るだけ外の空気にふれたり太陽にあたり、活動を多くして夜間にゆっくり休むことができるように促している。居室で休まれる際には、室温や湿度に注意を払っている。夜間帯はご利用者様の希望に合わせて照明の明るさも調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・主に服薬担当者が管理を行っており、薬の内容とご利用者様の状態を把握して必要に応じて主治医に連絡を取り調整等を行っている。また、職員全員が内容を把握するように努めている。受診時にはご利用者様の状態を主治医に報告して状態に合わせて薬を調節、変更していただいている。服薬時は2名の職員とご本人様にも確認していただいた上で確実に飲みこまれるまで見守っている。	各ユニットの服薬担当者が主となり服薬管理が行われており、職員全員が内容を把握するように努めておられます。受診時には利用者の状態を主治医に報告して状態に合わせて薬を調節、変更して頂いています。用法・用量、薬の変更時には職員に伝達され、変化がないか注意され、何かあれば医師に連絡されています。服薬時は2名の職員と本人にも確認して頂いた上で確実に飲みこまれるまで見守っておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗濯干し、洗濯物たたみを数人のご利用者様で会話しながら一緒にされたり、お盆拭き、調理下準備、読書、歌、畑仕事、塗り絵、散歩、編み物、干し柿作りなど一人ひとりの希望や得意分野に合わせた作業をしていただいている。・塗り絵や折り紙作品等、完成した作品を施設内に展示し喜びのある日々を過ごせるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族様と定期的に外出される方もある。また天候や気温、体調に合わせてご本人様の希望を聴いて散歩に行ったりしている。希望により墓参り、帰宅、必要があれば買い物や選挙など可能な限り早い対応を心がけている。体調により遠出が難しいご利用者様には近い場所でも気分転換になる場所を選び出かけている。・ご家族様の希望により、自宅に帰り一泊されるご利用者様、生まれ育った場所(県外)で連泊されたご利用者様もおられる。	家族と定期的に外出される方もあります。また、天候や気温、体調に合わせて本人の希望を聴いて散歩もされたり、外気に触れて頂くために外でお茶を飲まれることもあります。希望により墓参り、帰宅、必要があれば買い物や選挙など可能な限り早い対応を心掛けておられます。体調により遠出が難しい利用者には近い場所でも気分転換になる場所を選び出掛けておられます。家族の希望により、自宅に帰り一泊される利用者、生まれ育った場所(県外)で連泊された利用者もおられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご本人様やご家族様の希望に合わせて金銭の管理が出来る方は所持されている。・管理が難しい方はホームの金庫で預かり買い物の際にご本人様に渡して品選びから支払いまで見守りさせていただき買い物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は自由に使用していただいております、希望に応じ電話をかける支援をしています。お便りや届け物があった際は、電話や手紙でのお礼の手伝いをしています。届いたお便りを一緒に整理したり、返事を書くお手伝いや送付の支援を行っている。年末になると、毎年賀状を書かれるご利用者様もおられる。近年、入所される時に携帯電話をご持参されるご利用者様が増えてきており、いつでもご家族様と電話されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・浴室、トイレには温度・湿度計を設置して施設内の温度の違いが5度以上にならないように冷暖房の調節を行いヒートショックにならない環境づくりに心がけている。・玄関・食堂・廊下・階段には季節感のある装飾や花を飾ったり、ご利用者様の作品や写真を飾り温かい雰囲気作りをしている。・居室の場所がわかりにくいご利用者様には、目印になる物を掲げるなどの工夫をしている。	浴室、トイレには温度・湿度計を設置して施設内の温度の違いが5度以上にならないように冷暖房の調節を行いヒートショックにならない環境づくりに心掛けておられます。窓も沢山あり、採光も良く、食事の際には落ち着いたBGMを流され、和やかな雰囲気作りをされています。玄関・食堂・廊下・階段には季節感のある装飾や花を飾ったり、利用者の作品や写真を飾り温かい雰囲気作りが行われています。居室の場所がわかりにくいご利用者様には、目印になる物を掲げるなどの工夫をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・デイルームには、テーブル席とソファの場所を設けており、自由に利用できるようにしています。ご家族様や仲の良いご利用者様と自由にくつろいだり、一人でもゆっくり過ごすことができるスペース作りなどの配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時からご家族様に協力していただき、ご利用者様が気兼ねなくゆっくり過ごせるように馴染みの物を持ち込んでいただくことで、使いやすく居心地の良い場所になるように配慮している。・入居後でも必要に応じて冷蔵庫、電子レンジ、TV、神棚等、本人様が希望される物品を置いていただくことでより過ごしやすい環境になる様配慮している。	入居時には家族に協力して頂き、利用者が気兼ねなくゆっくり過ごせるように馴染みの物を持ち込んでいただくことで、使いやすく居心地の良い場所になるように配慮されています。入居後でも必要に応じて冷蔵庫、電子レンジ、TV、神棚等、本人様が希望される物品を置いて頂くことでより過ごしやすい環境になるよう配慮されています。それぞれの居室は本人の好みにしつらえておられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・通路やトイレ、階段の手すりを活用して自立歩行、移動の支援をしている。車椅子や歩行器が使用できるようにバリアフリーになっている。入浴の際は自立度に合った入浴チェアー、踏み台を選んで使用していただいている。・一人での入浴を希望されるご利用者様には、滑って転倒などないように十分に配慮して滑り止めのマットや足ふきマットを敷き、時間を見て様子を伺うなどして安全に配慮している。		